

令和7年度埼大附小図画工作部研究テーマ

児童の「感性」を磨く研究

—2年次—

埼玉大学教育学部附属小学校図画工作研究室

安藤 健太

荒川 祥輝

池上 直毅

現状・これまでの研究

教科研究テーマ

- ・R4「自分の思いを豊かにし、表現しきる児童を育てる」
- ・R5「本校図画工作科における個別最適な学びと協働的な学びとは？」

学びに向かう力、人間性等

互いに関連し合い、向上していく

知識及び技能



思考力、判断力、表現力等

- ◎ 児童が自身の必要感を自覚し、活動をするようになった。
- △ 個人的な活動に寄ってしまった面が強かった。

現状・これまでの研究

教科研究テーマ

- ・R4「自分の思いを豊かにし、表現しきる児童を育てる」
- ・R5「本校図画工作科における個別最適な学びと協働的な学びとは？」

個別最適な学びと協働的な学びの往還



◎ 図画工作科の学びは選択の連續であり、現在は選択肢の自由化と多様化が求められている。

△ 資質・能力の育成と言った意味でも、ますます個人差が広がってしまった。

今年度の研究

令和7年度埼大附小図画工作部研究テーマ

児童の「感性」を磨く研究

～2年次～

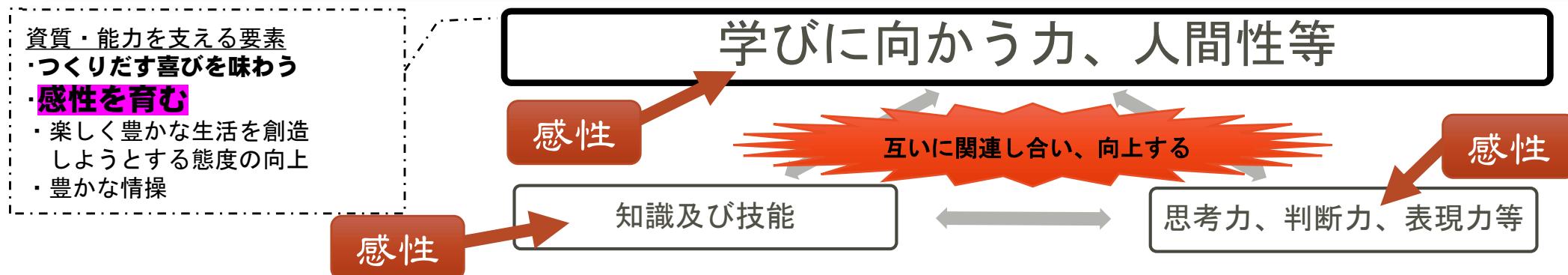
目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい
価値に向かう児童

目指す児童像：よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

図画工作科の学習は **自らの感性** や想像力を働かせながら、資質・能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。（指導要領解説P15）

→ **効果的に感性を働かせるような図画工作科の学びの過程で自ずとよさや美しさなどの価値に向かう児童が育成できる**



感性

【指導要領解説】様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものの
・視覚、触覚などの様々な感覚を働かせながら、自らの能動的行為を通して、形や色、イメージを捉えている。

- ・感性によって「受動的に感じること」「感じ取って自己を形成すること」「**能動的に**新しい意味や価値を創造していくこと」
- ・先天的なものではなく、育成可能。

造形的な見方・考え方を適切に働かせてこそ、図画工作の学びにおいて、感性を働かせている状態である。

感性を働かせるために必要だと思われる観点
・環境との関わり
・感動体験
・他者とのコミュニケーション
・様々な活動

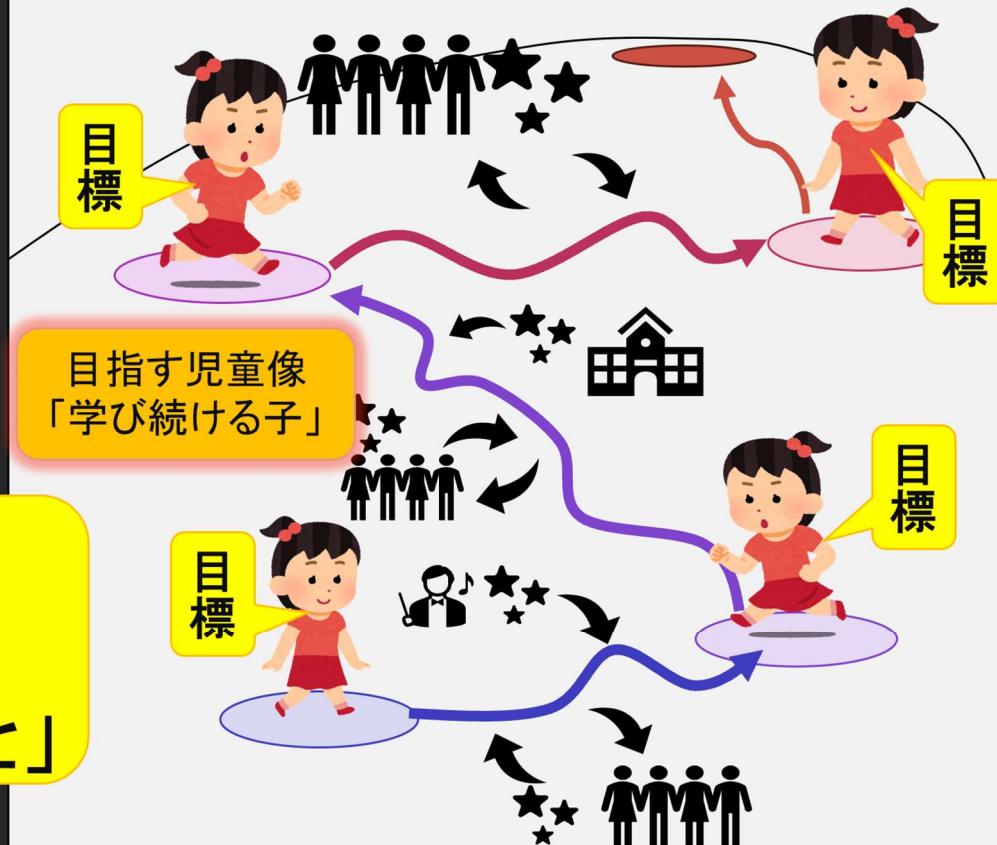
感性を磨くために、感性を働かせる

- ①「土台風土」を意識した指導をすることで、感性を働かせる。
- ②「教材」を意識した指導をすることで、感性を働かせる。
- ③「教師の関わり」を意識した指導をすることで、感性を働かせる。

学校研究との関連

学校研究主題
「漸進する学び」

視点
「目標をもてる
ようにすること」



目標をもてる児童

自己の表現を追求することで、

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

今年度の研究

令和7年度埼大附小図画工作部研究テーマ

児童の「感性」を磨く研究－2年次－

目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

「図画工作科の学習は自らの感性や想像力を働かせながら、資質・能力を發揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。このような過程は、その本来の性質に従い、おのずとよさや美しさを目指すことになる」(指導要領解説)

→児童の感性を育成し(磨き)、効果的に感性を働かせるような質の高い図画工作科の学びの過程を踏めば、おのずとよさや美しさなどの価値に向かう児童を育成できる

児童の「感性」を磨く研究ー2年次ー

目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

本校図画工作部が考える「感性」とは

- ・「様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なもの」(指導要領解説)
- ・先天的なものではない→育成が可能
- ・図画工作科における造形的な見方・考え方を適切に働かせてこそ、図画工作科の学びで感性を働かせている状態である。
- ・受動的なものだけではなく、自らの思いのままに選択すると
言った能動的なものも含むもの

今年度の研究

令和7年度埼大附小図画工作部研究テーマ

児童の「感性」を磨く研究－2年次－

目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

最終的な児童の姿

将来、さらにダイバーシティが進む世界を生き抜くために、子供たち一人一人が、**他者を理解し、受容し、認め合い、共生していく**ことができるようにしていく。

→感性を磨くことでこのような子供が育成できるのではないか？

→自分自身を表現し、自他のよいところを見付ける図画工作・美術教育でこそ、成し得るものではないか？

児童の「感性」を磨く研究－2年次－

目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

本校図画工作部が考える「感性」を「磨く」とは？

①感性を「働かせる」と「磨く」の違いについては、指導要領上では主に、「働かせる」という言葉を使用しているが、「感性」の定義が指導要領のものと本研究で異なるため、差別化を図っている。

②児童が造形活動において感性を働かせることで、感性の質が向上する過程を「磨く」と表現するため。

児童の「感性」を磨く研究－2年次－

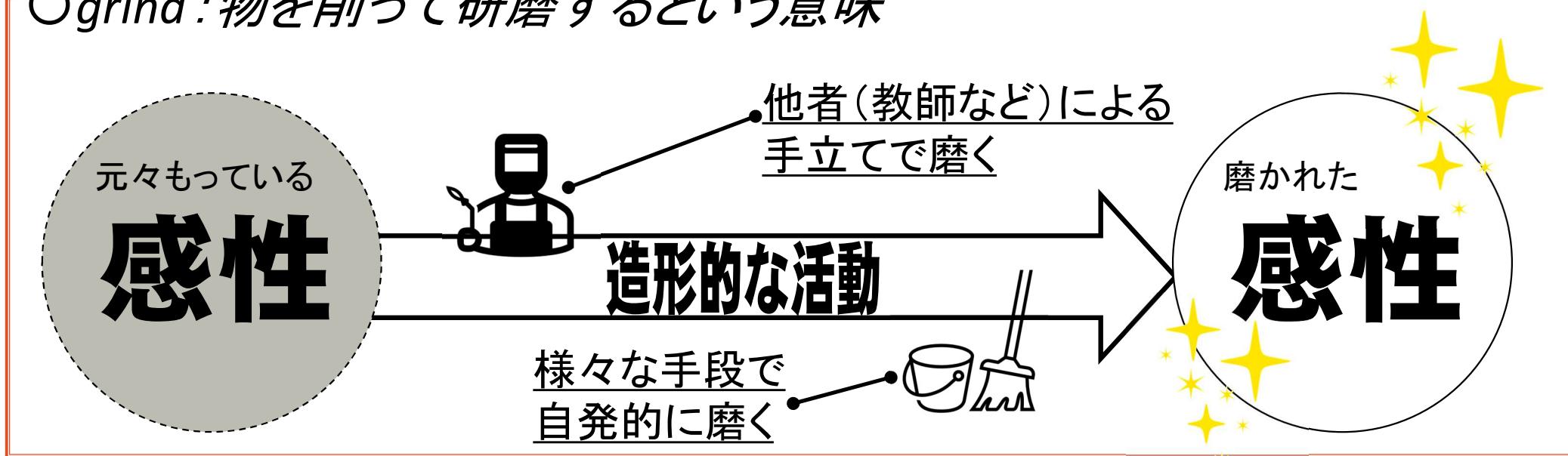
目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

本校図画工作部が考える「感性」を「磨く」とは？

◎polish : 物を磨いて光沢を出す、研磨するという意味

○grind : 物を削って研磨するという意味



児童が感性を磨いていると考えられる姿

本校图画工作部が考える具体的な姿

- 試行錯誤しながら、(児童自身にとっていいことを)思い付き、製作する姿
- 形や色、自分の何らかのイメージや思いと結び付けて製作する姿
- 選択している姿(意図をもって選択している)
 - ・なぜ、その材料を使ったか、組み合わせたか
 - ・なぜ、その製作を続けたか、止めたか
 - ・意欲面と結び付き、次の活動を見通している



昨年度の研究から分かったこと

効果的に感性を磨く児童の特徴、条件など

児童の特徴

- 「学びに向かう力、人間性」の資質・能力をよく働かせている。
- 図画工作に限らず、他教科や学校行事等の学びに対する意欲が高い。
- 既習の内容や知識事項を生かしている
- 豊富な材料体験、様々な領域での授業を受けた

題材や諸条件の特徴

- 協働的な題材においては、心理的安全性が担保されているような人間関係におけるグループ編成が有効
- 題材自体に魅力がある
 - 容易につくりかえられる、可変性あり、変化がわかりやすく可視化

今年度の研究方法(継続)

令和7年度埼大附小图画工作部研究テーマ

児童の「感性」を磨く研究ー2年次ー

目指す児童像

よさや美しさなどのよりよい価値に向かう児童

感性を磨くために必要と思われる観点

- ・環境との関わり
- ・感動体験
- ・他者とのコミュニケーション
- ・様々な活動

○よさや美しさなどのよりよい価値に向かっている児童が

①どのような場面で感性を働かせ、
②どのように学びを進めているか
の具体的な収集

× 感性が働いてるかの評価、可視化

①具体例の収集 → ②比較、検討し、共通点の発見

⇒感性は育成可能だと言える証明、日々の授業実践に生かすための要素

まとめ（展望）



- 図画工作科の授業において、常に児童は感性を働かせて活動していると考えるため、図画工作科の授業においては感性を磨くことが可能である。
- 今後も児童の姿から、より感性を磨くことについて考える。
- 感性は児童の主体的な意識により、より磨かれる。